

うちなーぐち

かわら版

沖縄語を話す会会報

第20号

2015年12月5日発行

会長 山路 安清

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-kuni@nifty.com 國吉 真正

電話 & F a x 044-988-8065

発刊20号記念

学ぶことに飽和点はない

下手からど習て、 勝りゆんすゆる
及ばらんと思て、 思案するな

（名護親方・程順則の琉球いろは歌から）

「おきなわ ご はな かい ちち たけんあち びんちよーい しながわ あーさき
沖縄語を話す会」月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

- ・どーあがち（自己努力）-----山路安清
- ・屋ぬ上辺んかい登たる『まぎら』-----新垣光枝
- ・昔物語-----和田晶子
- ・会報に出てきた語句の説明
- ・事務局から

ホームページ
沖縄語教育支援文庫

<http://www.wwq.jp/p/>
<http://www.wwq.jp/q/>

どーあがち (自己努力)

「那覇言葉」

会長 山路安清 (旧姓：徳田) (品川区)

おきなわけん にしんるくにん さだ
 沖縄県をて、2006年に「しまくとぅばの日」定
 みて、那覇んじえー、市長が「はいさい、はいたい
 運動」始みて、また、あまくまぬ島んじえー、「沖縄口
 語やびら大会」ぬ、催さつて、9月ねー、沖縄県ぬ
 「語やびら大会」ん催さつたんで言ーぐと、大事な
 びー事やんで、思とーいびーん。
 わ たー やまど びんちよー んーな
 我つ達ん、大和んじ、勉強 そーいびーぐと、皆か
 ら、ひるまささつとーいびーしが、今まで、色んなつ
 ちゆ ちゃー
 人ぬ達ぬめんそーちょーいびーん。
 やいびーしが、平生や、十人余いど集まいびーる。
 わ
 我んねー、ちゃーがなつし、会員ぬ多く集まいる
 ぐと かんげ
 如、考ーらんねー、成らんで思とーいびーん。
 たみ なま すく びんちよー
 うぬ為ねー、今ー、テキストぬあて、優りとーる勉強
 せいな はんぶん じかん あち かがた
 会成とーしが、半分ぬ時間や、集まとーる方々ぬ、
 せいじー めーめー かんげ
 平生から、なー銘銘どーくる考ーて、どーなー話ど
 し きんばなし くどはなし
 が、世間話 (さまざまな事話すん)するどーあが
 ちさんだれー、何時までん話ー、しーうーさん上に、
 じかん ね ちゆ あち かんげ
 どーなー時間ぬ無ーんぐと、っ人ん集まらんで、考
 ーとーいびーさ。
 わ じゆーさん どち やまど ち
 我んねー、十三ぬ時、大和んかい来やーびたしが、
 ちゆいむに しまうたうた うちなー
 どー一人物言ーさい、島唄唄たいいっし、どしど、沖縄
 ぐちちか わし ぐと
 口使て、どーあがちっし、忘らん如ちがきとーいび
 ーん。

う 終わい



富盛石彫り大獅子 (県指定有形民俗文化財) 1689年建立

やー あーび ぬぶ
屋ぬ上辺んかい登たる『まぎら』 「創作童話」

新垣光枝 (渡嘉敷村)

んかし にかし うぶんかし うちなー くー しま
 昔、昔、かーま大昔、沖縄ぬ小さる島なかい
 ふんとー うはなし
 あたる、本当やいぎさる御話 やいびーん。
 うみ しま はな う
 広さる海なかい、まぎ島から離りて、浮ちよーるうぬ
 しまぶー ゆ
 島小や、キラマンて呼ばつとーいびーたん。
 うめ うめ ぶちやい みーぶちや
 昼ぬ海ー、てーだぬ 光 さーに、ちらちら目光らさ
 るあたい光 て、澄ん切りとーる潮ぬ溜まいなえー、
 いる いゆ ちゃー あー
 色んな魚ぬ達ぬ、あーりきぎさそーて泳じよーいび
 ーたん。
 ゆるな くら てん ぶ ぶし ぶちやい
 夜成いねー、おー暗しんそーる天から、群り星ぬ 光
 みー ち ぶ
 ぬ、目うちしーがちー注じゅんねーっし、ちらちら降
 とーいびーたん。
 また ちーる やぶ ちちえ まつ ぶーな
 又、黄色ぬ柔つてーんそーる月ー、丸てーん小成た
 さ ちゃー しま むるちち
 い、細じりたい、消たいしーがちー、うぬ島、諸包
 どーいびーたん。
 かやぶちやー ーな
 うんにーまんぐるぬキラマー、茅葺家と、まぎ庭、
 ぶくじ かく やしち
 うりから、福木さーに囲てーる屋敷なえー、あー
 やー ちゆ ちゆ
 ふる、ぶーじゃー屋んで、呼ばつとーる屋小ぬあい
 びーたん。
 ぶーたー なが
 あーふるなえー、あー小達ぬ、長ぼーいそーる
 ちー
 あひやーあーぬ乳、ばーけーからけーしーがちー、う
 ちーし
 ぬ乳吸ふとーいびーたん。
 やー ぶーたー
 ぶーじゃー屋をてー、ぶーじゃー小達ぬ、あひや
 まつ た ちー ちら
 ーぶーじゃーぬ丸てーんし、垂らちよーる乳、面さ
 ちち た し
 ーに突ち、立ちちよーるま吸ふとーいびーたん。
 やー ぶか てー
 うぬ家をてー、あーと、ぶーじゃーぬ他に、なー
 ゆ ーい ぶん か
 ち『まぎら』んで、呼ばつとーる生ち物ぬ飼らーつと
 ーいびーたん。
 な ぶに
 ぶーじゃーん、あーん、まぎく成いねー、船さーに、
 まち む じん ちんちゆく
 街まて持っち行じ、うり売て、うぬ銭さーに衣作い
 ぬぬこー さーたー こー やーぬーしえ
 る布買たい、砂糖んでー買らりーくと、家ぬ主ー、
 ぬー な たみ うほー むぬく、てーしち すだ
 早くまぎく成する為に、多く物呉て、大切に育てと
 ーいびーたん。
 くら ちゆ
 うりんかい比びーねー、『まぎら』や、猫ぬ如つ

し、小^こさる^{どて}胴^{ぐと}体^{ぐと}や^{ぐと}い、ライオン^{ぐと}ぬ^{ぐと}如^{ぐと}そ^{ぐと}ー^{ぐと}る^{ぐと}かん^{ぐと}じ、
 う^{いん}り^{ぐと}か^{ぐと}ら、犬^{ぐと}ぬ^{ぐと}如^{ぐと}っ^{ぐと}し^{ぐと}横^{ぐと}ん^{ぐと}か^{ぐと}い^{ぐと}垂^{ぐと}ら^{ぐと}ち^{ぐと}ょ^{ぐと}ー^{ぐと}る^{ぐと}耳^{ぐと}、又^{ぐと}、
 狼^{あかみ}ぬ^{ぐと}如^{ぐと}っ^{ぐと}し^{ぐと}、目^みち^{ぐと}ん^{ぐと}ち^{ぐと}ゃ^{ぐと}ー^{ぐと}ん^{ぐと}成^{ぐと}て、目^み光^{ぐと}ゆ^{ぐと}る^{ぐと}ま^{ぐと}
 ぎ^み目^みん^{ぐと}玉^{ぐと}、口^{くち}な^{ぐと}か^{ぐと}え^{ぐと}ー、槍^{やい}ぬ^{ぐと}如^{ぐと}っ^{ぐと}し^{ぐと}、牙^{ぐと}ん^{ぐと}付^{ぐと}ち^{ぐと}ょ^{ぐと}ー
 い^をび^がー^したん^が。な^をー、う^をれ^がー^し可^あ笑^よさ^よる^よ姿^よや^よい^よび^よー^よたん^よ。あ^あん^あし、う^あり^あだ^あけ^あー^ああ^あらん^あ。『ま^あぎ^あら』や、歩^あち^あ様^あや、
 ピ^あョン^あピ^あョ^あン^あト^あコ^あト^あコ^あン^あ、ピ^あョン^あピ^あョ^あン^あト^あコ^あト^あコ^あン^あみ^あか^あち、キ^あジ^あム^あナ^あー^あぬ^あ如^あど^ああ^あい^あび^あー^あた^ある^あ。
 泣^なち^な声^なん^なで^な言^なー^なね^なー、い^なっ^なペ^なー^な珍^なし^なー^な物^なや^なさ。『ニ^なャ^なワ^なー^なン^な、ニ^なャ^なワ^なー^なン^な』で^な言^なち、泣^なち^なゃ^なび^なー^なさ。う^なぬ^な
 よ^なー^なな『ま^なぎ^なら』や、家^な人^な衆^なか^なら^なん^な相^な手^なに^なさ^なら^なん^なあ^ない、い^なぬ^な生^なち^な物^なぬ^な達^なか^なら、狂^なり^な者^な扱^なー^なさ^なっ^なと^なー
 い^なび^なー^なたん^な。

『ま^まぎ^まら』や、あ^あー^あぬ^あっ^あ子^あ小^あ達^あ、う^あり^あか^あら、ふ^あー^あじ^あ
 ゃ^あー^あぬ^あっ^あ子^あ小^あ達^あぬ^あ事^あん^あか^あい『あ^あぬ^あっ^あ子^あ小^あ達^あや、あ^あん^あ
 ま^あー^あん^あか^あい^あん、家^あ人^あ衆^あん^あか^あい^あん^あ愛^あさ^あさ^あっ^あて^あ益^あし^あや^あさ。
 あ^あん^あし^あが、我^あん^あね^あー、家^あ人^あ衆^あん^あか^あい^あん、相^あ手^あに^あさ^あら^あん^ああ^あい、生^あち^あ物^あぬ^あ達^あか^あら、狂^あり^あ者^あ扱^あー^あさ^あっ^あて、
 ど^あし^あん^あ居^あら^あん^あ寂^あっ^あさ^あっ^あさ^あー。』ん^あで^あ言^あち、ど^あー^あー^あ人^あ物^あ言^あ
 ー^あし^あー^あが^あち^あー、幸^あや^あん^あね^あー^あそ^あー^ある^ああ^あー^あ小^あ達^あ、ふ^あー^あ
 じ^あゃ^あー^あ小^あ達^あ、眺^あみ^あと^あー^あい^あび^あー^あたん^あ。

う^うぬ^う様^う子^う、木^うぬ^う上^うか^うら^う見^うち^うょ^うー^うた^うる^う鳥^うぬ、^う「え^うー、
 『ま^まぎ^まら』や^うー、う^うぬ^う格^う好^うや^う、何^うや^うが。や^うー^う如^うー^うる^う
 生^いち^む物^のー、見^んち^んャ^{ぐと}る^{ぐと}事^{ぐと}ー、無^ねー^ねら^ねん^ねど^ねー。ライ^{ライ}オ^オン^ン
 や^うん^うで^う思^うい^うね^うー、あ^あね^あー^ああ^あらん^あ。猫^まや^まん^まで^ま思^うい^うね^うー、
 あ^あね^あー^ああ^あらん^あ。あ^あん^あし、犬^{いん}や^{いん}ん^{いん}で^{いん}思^うい^うね^うー、あ^あね^あー^ああ^あ
 ら^あん^あ。狼^{あかみ}や^{あかみ}ん^{あかみ}で^{あかみ}思^うい^うね^うー、あ^あね^あー^ああ^あらん^あ。う^うり^うな^う
 か^うい、キ^あジ^あム^あナ^あー^あぬ^あ如^あー^ある^あ可^あ笑^あさ^ある^あ歩^あち^あ様^あや、風^あ情^あー^あ
 無^あー^あら^あん^あど^あー。ち^あゃ^あー^あが^あな^あ成^あら^あに。』ん^あで^あ、わ^あち^あゃ^あく^あ
 や^あび^あたん^あ。

鳥^{がらし}ん^{がらし}か^{がらし}い、わ^{がらし}ち^{がらし}ゃ^{がらし}く^{がらし}ら^{がらし}つ^{がらし}た^{がらし}る『ま^まぎ^まら』や、^{がらし}「あ^{がらし}ん^{がらし}
 言^うる^う鳥^{がらし}や^{がらし}ん、真^まっ^ま黒^{くろ}そ^{どて}ー^{どて}る^{どて}胴^{ぐと}体^{ぐと}や^{ぐと}え^{ぐと}ー^{ぐと}さ^{ぐと}に。
 う^うり^うな^うか^うい、真^まっ^ま黒^{くろ}成^ぬた^はし^はえ^はー、虹^に色^なぬ^は羽^は成^はい^は欲^はさ^は
 ぬ、赤^{あか}、黄^ち色^る、お^おー^おる^おー、紫^{むら}ぬ^さ鳥^{どい}ぬ^ち達^は羽^は欲^はさ^はっ^は
 し、色^{いろ}んな^は羽^は脚^は一^は杯^はん^はか^はい^は着^はち^はゃ^はく^はど、い^{いろ}く^{いろ}ち^{いろ}ん^{いろ}色^{いろ}ぬ^{いろ}
 ま^まん^まき^まら^まっ^まて、真^まっ^ま黒^{くろ}ぬ^{どて}胴^{ぐと}体^{ぐと}成^あた^あの^あー^あら^あに。我^わん

ね^{がらし}ー、鳥^{ぐと}ぬ^{ぐと}如^{ぐと}っ^{ぐと}し^{ぐと}欲^{ぐと}成^{ぐと}て、此^{ぐと}ぬ^{ぐと}如^{ぐと}ー^{ぐと}る^{ぐと}胴^{ぐと}体^{ぐと}成^{ぐと}た^{ぐと}る^{ぐと}
 者^{むの}ー^{むの}あ^{むの}ら^{むの}ん^{むの}む^{むの}ん。』で^{むの}言^{むの}ち、じ^{むの}ー^{むの}ぐ^{むの}い^{むの}ひ^{むの}ゃ^{むの}ー^{むの}ぐ^{むの}い^{むの}、ど^{むの}
 ー^{むの}ー^{むの}人^{むの}物^{むの}言^{むの}ー^{むの}そ^{むの}ー^{むの}い^{むの}び^{むの}ー^{むの}たん^{むの}。

鳥^{がらし}ー、^{がらし}「何^{むの}ん^{むの}ち、じ^{むの}ー^{むの}ぐ^{むの}い^{むの}ひ^{むの}ゃ^{むの}ー^{むの}ぐ^{むの}い^{むの}そ^{むの}ー^{むの}が^{むの}。風^{むの}
 情^{むの}ー^{むの}無^{むの}ー^{むの}ら^{むの}ん^{むの}ど^{むの}ー。『ま^{むの}ぎ^{むの}ら』ん^{むの}で^{むの}言^{むの}ち、何^{むの}処^{むの}が^{むの}な^{むの}
 か^{むの}い^{むの}飛^{むの}て^{むの}行^{むの}ち^{むの}ゃ^{むの}び^{むの}たん^{むの}。

『ま^まぎ^まら』や、^ま「思^{うむ}と^どー^わた^{むの}る^{むの}通^{むの}い、我^{むの}ん^{むの}ね^{むの}ー、風^{むの}情^{むの}
 ー^{むの}無^{むの}ー^{むの}ら^{むの}ん^{むの}姿^{むの}ど^{むの}そ^{むの}ー^{むの}が^{むの}や^{むの}ー。我^{むの}ん^{むの}ね^{むの}ー、ち^{むの}ゃ^{むの}ん^{むの}如^{むの}ー
 る^{むの}姿^{むの}が^{むの}そ^{むの}ーら、一^{むの}回^{むの}ー、見^{むの}ち^{むの}見^{むの}で^{むの}ーや^{むの}ー。』ん^{むの}で、
 思^{うむ}や^{うむ}び^{うむ}たん^{うむ}。

鳥^{がらし}ん^{がらし}か^{がらし}い、わ^{がらし}ち^{がらし}ゃ^{がらし}く^{がらし}ら^{がらし}つ^{がらし}た^{がらし}る『ま^まぎ^まら』ぬ^{ちも}肝^{ちも}ー、い^{ちも}
 っ^{ちも}ペ^{ちも}ー^{ちも}嘆^{ちも}か^{ちも}さい^{ちも}び^{ちも}ー^{ちも}たん^{ちも}。

根^{くん}気^ちぬ^ね無^あー^あら^あん^あ歩^あち^あ様^あそ^あー^あて、ピ^あョン^あピ^あョ^あン^あト^あコ^あト^あコ^あン^あみ^あか^あち、平^あ生^あど^あ変^あ
 わ^あら^あん^あ異^あ風^あな^あ歩^あち^あ様^あそ^あー^あい^あび^あー^あたん^あ。

丁^ち度^よ、心^ちま^よ通^あと^あー^あた^あし^あえ^あー、か^あー^あぶ^あや^あー^あや^あい^あび^あー^あ
 ん。う^あぬ^あか^あー^あぶ^あや^あー^あや^あ、木^きぬ^い枝^だん^さか^さい^さ下^さが^さい^さね^さー、^あ「あ^あ
 い。心^あま^あを^あて、泣^あち^あが^あた^あー^あま^あー^あと^あー^あし^あえ^あー、『ま^まぎ^まら』
 や^ああ^あら^あに。何^あが^あ何^あや^あが。う^あぬ^あ様^あ子^あー、誰^あが^あな^あん^あか^あい^あ
 わ^あち^あゃ^あく^あら^あつ^あて、今^あに^あん^あ泣^あち^あが^あた^あー^あそ^あー^ある^あ面^あや^あし^あが、
 肝^あ苦^あさ^あぬ。』ん^あで、目^あ口^あ柔^あ柔^あと^あ声^あ掛^あき^あて^あ言^あび^あたん^あ。

『ま^まぎ^まら』や、^ま「か^あー^あぶ^あや^あー^あさん、に^あふ^あー^あど^あー。実^あー、
 我^あん^あね^あー、鳥^あん^あか^あい^あ風^あ情^あー^あ無^あー^あら^あん^あ胴^あ体^あそ^あー^あん^あで^あ言^あ
 ら^あつ^あて、う^あり^あな^あか^あい、誰^あん^あ相^あ中^あん^あか^あい^あ入^あつ^あて^あ呉^あら^あん^あ
 ぐ^あと、ど^あー^あー^あ人^あ嘆^あか^あさい^あび^あー^あん。』で、言^あび^あたん^あ。

う^うぬ『ま^まぎ^まら』や、か^あー^あぶ^あや^あー^あん^あか^あい^あ目^あ口^あ柔^あ柔^あと、声^あ
 掛^あき^あら^あつ^あて、い^あふ^あー^あ肝^あん^あや^あー^あや^あど^あ成^あい^あび^あたん^あ。

今^あ度^あー、ど^あし^あ成^あい^あん^あで^あ思^あて、か^あー^あぶ^あや^あー^あん^あか^あい^あ近^あ寄^あ
 て^あ行^あじ^あゃ^あく^あど、か^あー^あぶ^あや^あー^あや^あ、頭^あー、下^あ成^あち、木^あぬ^あ
 枝^あん^あか^あい^あ下^あが^あた^ある^あま^あま、^あ「え^あー、『ま^まぎ^まら』や^あー^あや^あ、近^あ
 寄^あて^あ見^あじ^あー^あね^あー、本^あ当^あ可^あ笑^あさ^あっ^あさ^あー。ライ^あオ^あン^あぬ^あ如^あー
 る^あう^あぬ^あか^あん^あじ、犬^あぬ^あ如^あー^あい^あふ^あい^あ垂^あら^あち^あょ^あー^ある^あ耳^あ、
 狼^{あかみ}ぬ^{あかみ}如^{あかみ}ー^{あかみ}る^{あかみ}目^{あかみ}ん^{あかみ}玉^{あかみ}、キ^{あかみ}ジ^{あかみ}ム^{あかみ}ナ^{あかみ}ー^{あかみ}ぬ^{あかみ}如^{あかみ}ー^{あかみ}る^{あかみ}歩^{あかみ}ち^{あかみ}様^{あかみ}、
 猫^{あかみ}ぬ^{あかみ}如^{あかみ}ー^{あかみ}と^{あかみ}る^{あかみ}小^{あかみ}さ^{あかみ}る^{あかみ}胴^{あかみ}体^{あかみ}、あ^{あかみ}ん^{あかみ}し、ニ^{あかみ}ャ^{あかみ}ワ^{あかみ}ー^{あかみ}ン^{あかみ}ん^{あかみ}で^{あかみ}
 言^{あかみ}る^{あかみ}可^{あかみ}笑^{あかみ}さ^{あかみ}る^{あかみ}泣^{あかみ}ち^{あかみ}声^{あかみ}、思^{あかみ}と^{あかみ}ー^{あかみ}た^{あかみ}る^{あかみ}通^{あかみ}い、^{あかみ}や^{あかみ}ー^{あかみ}や^{あかみ}、風^{あかみ}情^{あかみ}
 ー^{あかみ}無^{あかみ}ー^{あかみ}ら^{あかみ}ん。』で、か^{あかみ}ー^{あかみ}ぶ^{あかみ}や^{あかみ}ー^{あかみ}ん、あ^{あかみ}ん^{あかみ}言^{あかみ}び^{あかみ}たん^{あかみ}。

事柔らさんで、思と一たるかーぶやーんかいん、
わちゃくらったる『まぎら』や、「あん言るかーぶや
ーやでん、昔、生ちむしど鳥ぬおーえーさいに、生ち
むしぬ勝ちがたーまーとーいねー、どーや生ちむしや
んで言ち、ゑんちゆぬ如ーる胴体見して、鳥ぬ勝ち
がたーまーとーいねー、どーや鳥やんで言ち、ふさぬ
付ちよーる羽見して、じるからん、相中から外んさ
ったのーあらに。我んねー、うん如ーとる理屈食ー者
ー、あらんむん。」で、じーくいひやーくいそーいび
ーたん。

かーぶやーや、「何じーくいひやーくいそーが。風
情ー無ーらんどー。『まぎら』」んで言ち、暗さるが
まかい飛で行ちやびたん。

うぬ『まぎら』や、又、又、うけーい物言ーっし、
ピョンピョントコトコトン、ピョンピョントコトコト
ンみかち、キジムナーぬ如ーる歩ち様っし、屋敷か
ら外んかい出して行ちやびたん。

うぬ『まぎら』や、誰ど行逢でん、挨拶んさん如、黙
で走いくーやびたん。声出じゃしーねー、「ニャワ
ン」ど成いくど、ちつど皆から、「うぬ声や、何やが。
猫どやるい。犬どやるい。異風な生ち物やっさー。」
んで、わちゃくらりーしえー、間違ー無ーらんぞ、思
たくどぞやいびーる。

まるまるーど、どーぬまっとーばそーる事信じと
ーたる『まぎら』や、肝ぬ乗りらん成で無ーやびらん。
あんし、誰んかいん行逢らん所どめーで歩ちよーい
ねー、たった夜ゆつて、やがで、夜成で無ーやびら
ん。

「おー暗しんから、まぎ生ち物ぬ出して、襲ーりー
ねー、ちゃーすがやー。」んで、思いねー、小さる胴
体そーるうぬ『まぎら』や、ふどふどーっし、「寂っ
ささー。恐るさささー。」んで言ち、大声出じゃち、
泣ち欲しく成いびたん。

あんやしが、声出じゃしーねー、誰がなんかい見ー出
じゃさつて、食ーりーんで思で、泣ちやびらんたん。
『まぎら』や、涙ぬ出じーしにじて、夜ぬ天ぬ月見ち

よーいねー、何がやら肝ぬ温たまで、月ぬ光んか
い見ー守んで呉らつとーんねーする心地成いびたん。
肝んやーやーど成たる『まぎら』ぬ、寝んじ所どめ
ーで、歩ち始みーねー、月ん黙で、追で来やーびたん。
あんし、知らん人ぬ家ぬあみだいまでつ来、『まぎら』
や、くたんで、憩とーいねー、むいんちゆか、寝ん
で無ーやびらん。

『まぎら』ぬ肝分かたる月ー、天から光さーに柔
つてーんし、うぬくたんでとーる『まぎら』ぬ胴体、
包で取らさびたん。

夜ぬ明きて、『まぎら』ぬ、目覚ましーねー、月ー、
見ーらんたしが、そーだぬふらふら照で、『まぎら』
んかい精呉で取らさびたん。まるまるーど、根気ぬ付
ちやる『まぎら』や、どー一人さーに、鳥ぬ道ピョ
ンピョントコトコトン、ピョンピョントコトコトンみ
かち、歩ちよーいびーたん。

がーがー鳴ちがちー、飛で来やる鳥ー、『まぎら』
見ー当てーねー、「えー、『まぎら』やーや、何んち、
んまなかい居が。やー家や、かーまあがたどやえーさ
に。異風な歩ち様っし、良ー、くままで来やる場い。」
んで、目ぬち鼻ぬちさびたん。

やいびーしが、『まぎら』や、ちゃつさわちゃくらつ
でん、うふやつさる月と、ちらちら光ゆるでーだぬ、
見ー守んで呉とーんねーすくと、常どやいびーたる。

あんしん、うぬ『まぎら』や、時々、「あーど、ふ
ーじゃーびけーん愛さそーたる皆ー、ちゃーそーがや
ー。我んが居らん成たし氣に付ちよーがやー。えーね
ー、風情ー無ーらん我んが居らん成たくど、肝んさ
ーじゃーど成で居ら分からんやー。」んで、思たい
そーいびーたん。

やがで、夜成で、又、月ぬ東ぬ天から昇で来やー
びたん。うぬ月ー、昨日やか、いふ小や、膨けーり
で、『まぎら』んかい、目笑ーそーんねーそーいび
ーたん。

「思とーたる通い、今日夜ぬあみだいぬ下をで、
寝んでわどやさ。」んで言ち、うぬ『まぎら』や、家か

えー、戻らん如、月見じがちー、あみだいぬ下をて、
寝んで無ーやびらん。

夜ぬ明きーねー、昨日どいぬ如月一、無ーらん成
て、てーだぬちらちら照て、『まぎら』起くち呉やび
たん。

平生ど変わらん、鳥ん、かーぶやーん、どー一人
歩ちよーる『まぎら』わちやくやびたしが、うぬ『ま
ぎら』や、うりんかえー、じゃーん無ーん如、ピョン
ピョントコトコト、ピョンピョントコトコトみか
ち、嬉さ嬉さっし歩ちゆる事成いびたん。

いちゆたー歩ちよーいねー、『まぎら』や、赤瓦屋
ぬ新家見ー出じゃさびたん。

うぬ『まぎら』や、「あぬ清ら家んかい上がて、うふ
やっさる月近くから見じ欲さっさー。」んて言ち、小
さる胴体、ピョンピョントコトコト、ピョンピョ
ントコトコトみかち、石垣んかい登て、んまから、
ピョーンみかち、瓦屋んかい飛ぬじ移やびたん。

瓦屋ぬ上辺ぬ真ん中まどつ来、しんじんと、びち
やる『まぎら』や、月ぬ出じて来ゆーし、何んさん如、
うぬまま動かん如いぢ、待ちよーいびーたん。

てーだぬ、いり(西)ぬ山なかい隠て、いふどゆ
ーどさる。んまりかーや、暗く成て、やがて、東ぬ天
から、いっぺーまぎ月ぬ、静かに昇て来やーびたん。

瓦屋ぬ上辺んかい、何んさん如いぢよーる『まぎ
ら』んかい、気に付ちやる月一、「ばー夜やー。寂っ
さぎさそーる者よ。やーや、あみだいぬ下なかい居し
やか、屋ぬ上辺んかい居しえー、いっぺー似合て、上
等やさ。『寂っさっさー』びけーん言ち、しふたい泣ち
そーる『まぎら』ど別りて、屋ぬ上辺一、益しやん
でぬ獅子んかい成いしえー、益しやさ。」んて、『まぎ
ら』んかい言びたん。

うぬ『まぎら』や、「本当やがやー。とーとーめー
さい。実一、我んにん、んまなかい居しえー、ばー心
地やん。誰んわちやくすしえー居らんあい、とーとー
めーんかい行逢ゆる事成て、幸やんどー。」んて言
びたん。

月んかい言つたる通い、『まぎら』や、瓦屋ぬ真ん中
なかいいぢ、動かん如そーいびーたん。

月一、動かん如そーる『まぎら』んかい七粒ぬ水
ぬ垂い、するつと落さびたん。

あんしーねー、『まぎら』ぬ胴体や、石ぬ如っし、く
ふて、獅子成いびたん。

なーちゃぬ事やいびーん。
瓦屋ぬ真ん中をて、腰まっとーば伸ばち、ライオン
ぬ如っし、かんじど槍ぬ如とーる牙、あんし、まぎ
目ん玉さーに天見一付きて、いぢよーる石ぬ如っし
置かっとーる物、見ちやるっ人ぬ達や、思ーじふら
ーじ、手うさーちよーいびーたん。

うぬ置かっとーる物一、あぬ風情無ーらん姿そー
たる『まぎら』やんて言しえー、誰一人ん気に付ち
ゆる事一、無ーやびらんたん。

うりだけーあらん。『まぎら』や、獅子んて呼ばつて、
今ん、ゆくん、屋ぬ守い神どっし、大切にさっとー
んて言る、本当ぬ如とーる昔、昔、かーま昔ぬ御
話やいびーたん。

終わい



昔物語

和田晶子(我孫子市)

我んねー、沖繩ぬ昔話にちーて、いっぺーすー
みぬあいびーん。

勉強会をて、色々「昔物語」習ーち呉みそーち、
いっぺーあーりきさんて思とーいびーたん。

ある日ぬ事やいびーしが、勉強会ぬ御方ぬ、我ん
にんかい「此ぬ書物さーに、沖繩口ぬ勉強っし。」
んてち、「ふる里の民話」んて言る書物借らち呉みし

えーいびーたん。

C Dんあいびーくと、聞^ちちやびたん。ちむえーぬ、む
つどわかやびら^{さんしん}んたしが、三線^{うど}ぬ音^ち聞^ちかりて来、
語^{かた}い部^{かた}ぬ方^{うはなし}ぬ御^{しばい}話^{ぐと}一、芝居^わぬ如^わどあて、我^わんねー、
思^{うま}ーじふらーじ、聞^ちち惚^ちりて無^ねーやびらん。

「鬼^{うにむーちー}餅^{みみち}」どか、「耳^{ぼーじ}切り^{くすく}坊^く主^す」どか、「糞^{くすく}食^く」ど
か、20ぬ御^{うはなし}話^{うはなし}ぬあいびーん。

我^わんが、いっペーあーりきさんで思^{うむ}たしえー、「奥^{おーぬ}武^{やま}
山^{やま}ぬみみじゃー」んで言^ゆる御^{うはなし}話^{うはなし}やいびーん。

此^くぬ御^{うはなし}話^{うはなし}やいびーしが、『昔^{なかしんかし}昔^{おーぬ}、奥^{やま}武^{やま}
山^{やま}ぬみみじゃー』んで言^ゆる御^{うはなし}話^{うはなし}やいびーん。此^くぬ島^{しま}なかい、みみじゃー一門^{いちむん}
ぬ、暮^くらちよーいびーたん。

ある日^{ふー}ぬ事^{ぐと}やいびーん。一匹^{いっぴち}ぬたんめーみみじゃ
ーぬ、二才^{にーしえー}みみじゃーんかい、「今^{なま}から、我^わんが話^{はなし}
すしえー、ゆくーゆくー考^{かんげ}て聞^ちきよーやー。」んで、
話^{はなし}始^{はし}みやびたん。

「我^わっ達^{たー}みみじゃー一門^{いちむん}や、10万^{じゅーまんびち}匹^く、50万^く匹^{じゅーまんびち}、
100万^{ひゃーくまんびち}匹^{にん}んち、年^{にん}々^{にん}た^{うほー}た^なつた^ち多^わく成^なて来^くよーん。我^わ
っ達^{たー}や、此^くぬ島^{しま}小^こぬ、んちや噛^かむ生^いちちよーしが、
んちや食^く倒^{とー}ち、噛^かむるんちやー、無^ねーん成^なて、後^{あど}ぬ
うじゆめー、皆^{みな}、死^しぬるはじ。」んで言^ゆびたん。

「あきさみよー。大^{でーじ}事^いやさ。」んで言^いち、みみじゃー
一門^{いちむん}や、あまなかい見^みゆる渡^{わた}ん地^じんで言^ゆる所^{ところ}かい、
福^{ふく}木^じぬ葉^はぬ舟^{ふね}んかい乗^{のり}て、波^{なみ}んかいゆ^ゆつた^つたい^{たい}ゆ^ゆつた
いっし、家^{やーらーちー}移^{うつ}さびたん。

やいびーしが、渡^{わた}ん地^じを^をん、みみじゃー一門^{いちむん}や、又^{また}
ん年^{にん}々^{にん}た^{うほー}た^なつた^ち多^わく成^なて、「あきさみよー。大^{でーじ}事^いやさ。
渡^{わた}ん地^じぬんちや食^く倒^{とー}ち、噛^かむるんちやー、無^ねーん成^な
て、後^{あど}ぬうじゆめー、皆^{みな}、死^しぬるはじ。」んでち、又^{また}
ん家^{やーらーちー}移^{うつ}さびたん。

うぬ後^{あど}ん、みみじゃー一門^{いちむん}や、噛^かむるんちやー、無^ね
ん成^なて、後^{あど}ぬうじゆめー、皆^{みな}、死^しぬるはじんでち、線^く
い返^けーし返^げーし、家^{やーらーちー}移^{うつ}つし、沖^{おち}縄^なぬあまくまんか
い、みみじゃーや、広^{ひろ}まて行^いじやんでぬ事^{ぐと}やーびん。』

で。
此^くぬ書^{すむち}物^{ぶつ}なかい、此^くぬ如^{ぐと}る御^{うはなし}話^{うはなし}ぬあいびーん。

我^わんねー、小^くさいねー、男^{おき}弟^{がうつと}ど、ちゆけー隣^{とな}ぬ、
くむいかい魚^{いゆと}取^といが行^いちやびたん。

うぬ時^{どち}、んちや掘^ふて、みみじゃーかつ掘^{ちか}て、むんだに
さる事^{くどうびん}思^わ出^わじやち、我^わんねー、みみじゃー一門^{いちむん}んか
い、いっペー肝^{ちむくり}苦^くさたる事^{ぐと}しえーさやー。言^い一訳^{わき}ぬ無^ね
ーらんで思^{うむ}やびたん。

沖^{うちな}縄^{んかし}ぬ昔^{はなし}話^{うむつ}一、面^{うむつ}白^{はなし}さんあい、なちかさんあい、
我^わんねー、思^{うま}ーじふらーじ、本^{ふんとー}当^{ぐと}ぬ事^{うむ}んで思^ねて無^ね
やびらん。

あんし、天^{てん}どか海^{うみ}んかい神^{かみ}ぬめんそーち、又^{また}、木^き
どか石^{いし}どかぬ中^ななかいん、神^{かみ}ぬめんそーち、人^{にん}間^{じん}どつ
し大^{てーしち}切^くな事^{くとなら}習^くち呉^くて、いっペー勉^{びん}強^{ちよー}成^ないびーんや
ーたい。

沖^{うちな}縄^{くち}口^{はなし}さーに話^{はなし}すしえー、な^{むちか}だ難^{むちか}さいびーし
が、聞^ちちゆしえー、な^{むちか}だ難^{むちか}さいびーん。

勉^{びん}強^{ちよー}会^いを^いて、御^{くすーよー}衆^う様^{ちよー}ぬ、沖^{うちな}縄^{くち}口^{はなし}つし言^いちよーみし
えーる事^{くど}ぬ分^わからんくど、我^わんねー、どるばとーる
場^{ばす}所^{ところ}んあいびーん。

くぬ昔^{なかしむぬがたい}物^{ぶつ}語^ごぬC D聞^ちちがちー、此^くりからん、う
みはまて、沖^{うちな}縄^{くち}口^{はなし}ぬ勉^{むちか}強^{ちよー}さねー成^ならんで思^{うむ}とーいび
ーん。

う
終^うわい

会報に出てきた語句の説明

- ・いー事：よいこと。めでたいこと。
- ・ひるまさん：不思議である。珍しい。
- ・めんしえーん：いらっしゃる。おいでになる。「居る。来る。行く。」の敬語。
- ・ちゃーがな：どうにか。何とか。
- ・なー銘^{めーめー}銘^{めーめー}：めいめい。各自。
- ・どーくる：自分自身。
- ・どーなー：自分たち自身。
- ・しーうーすん：することができる。
- ・どー一^{ちゆいむに}人物^に言^い：独り言。
- ・どし：友達。
- ・ちがきーん：精出す。励む。

- ・かーま：遠方。遠く。
- ・～なかい：に。の中に。
- ・～ぎさん：～そうだ。～らしい。
- ・てーだ：太陽。お日さま。
- ・目^み光^{ひかり}らさん：まぶしい。まばゆい。
- ・あたい：くらい。ほど。
- ・あーりきさん：面白い。楽しい。「あーりきぎさん：面白そうである。」
- ・目^みうち：まばたき。
- ・～がちー：ながら。つつ。
- ・柔^やってーん：やさしく。
- ・細^さじりゆん：細くなる。
- ・うんにーまんぐる：その頃。
- ・あー：豚。「あーふる：石で囲んだもので、中に豚を飼い、糞は豚の飼料となった。」
- ・ふーじゃー：やぎ。
- ・あひゃー：家畜などの親。母体となるもの。
- ・長^{なが}ぼーいすん：長々と寝る。寝そべる。
- ・ばーけーからけー：奪う合うさま。
- ・かんじ：たてがみ。とさか。
- ・目^みちんちゃーん^な成ゆん：目をぎよるりと光らす。
- ・うりだき：それほど。それだけ。「うりだけーあらん：それだけではない。」
- ・いぬ～：同じ。「いぬ^い生^{むん}ち物^なぬ^な達^{ちやー}：同じ動物たち」
- ・あんまー：母。おかあさん。
- ・あねーあらん：そうではない。
- ・風^{ふう}情^{じやう}ー無^なーらん：みっともない。
- ・ちゃーがな成らに：何とかならないか。
- ・わちゃくゆん：からかう。
- ・～えーさに：～はしないか。「真^まっ黒^くそーる^{どてー}胴体やえーさに：真っ黒い体ではないか」
- ・まんきゆん：混ぜる。
- ・じーぐいひゃーぐい：不平ばかり言うこと。
- ・かーぶやー：こうもり。
- ・～まーとーん：～の状態となる。「泣^なちがたーまーとーん：今にも泣きそうになっている」
- ・目^み口^{くち}柔^や柔^やど：表情がやさしく。
- ・い^いふ^ふー：少しは。
- ・肝^{ちむ}んやーやーど^な成ゆん：心もほっと安心する。
- ・生^{せい}ちむし：獣。
- ・おーえー：けんか。
- ・ふ^ふさ：足。
- ・柔^なんちゆ：ねずみ。
- ・理^り屈^{くち}ー者^{むん}：狡猾な者。ずるがしこい者。
- ・がま：洞窟。
- ・うけーい^む物言^にー：自信のない言い方。
- ・走^はい^いく^くーゆん：通り過ぎる。通過する。
- ・まるまるーど：すっかり。
- ・どー：体。自分。自身。
- ・まっとーば：まっすぐ。正しいさま。
- ・肝^{ちむ}ぬ^ぬ乗りらん：気乗りがしない。心が進まない。
- ・どめーゆん：拾う。求める。
- ・た^たった：たびたび。次第に。
- ・夜^ゆゆ^ゆっ^っく^くゆん：日が暮れる。
- ・ふ^ふど^どふ^ふどーすん：ぶるぶる震える。
- ・にじゆん：こらえる。我慢する。
- ・あみだい：軒。軒下。
- ・く^くたん^{たん}で^でゆん：くたびれる。疲れる。
- ・むいんちゆん：(心身が)ぐったりする。
- ・目^みぬ^ぬち^ち鼻^{はな}ぬ^ぬちすん：意地悪なことをいう。
- ・ちゃっさ：どれくらい(の数量・程度)どれほど。
- ・う^うふ^ふや^やっ^っさん：おとなしい。やさしい。
- ・常^{ちやう}：常。当たり前。平気。
- ・えーねー：あるいは。
- ・肝^{ちむ}んさーじゃーど^な成ゆん：気もせいせいする。心もさっぱりする。
- ・目^み笑^{わら}ー：微笑み。微笑。
- ・じゃーん無^なーん：人の言を気にしない。平気である。
- ・いちゆたー：ちょっと。しばらく。
- ・飛^とぬ^ぬじゆん：跳ねる。跳ねて飛ぶ。
- ・しんじんど：しなやかにしているさま。
- ・い^いゆん：すわる。

- ・い^い：少し。
- ・ゆーど^ど：よどみ。「ゆーど^どすん：長逗留する。」
- ・し^なぶたい泣ち：めそめそ泣くこと。
- ・とーとーめー：お月様。
- ・するつと^と：そつと。ひそかに。
- ・く^ふゆん：固く成る。固まる。
- ・思^うーじ^まふらーじ：思わず。思いがけず。
- ・ゆくん：なおも。
- ・手^てうさーすん：手を合わせる。合掌する。
- ・いっペー：たいそう。非常に。たいへん。
- ・すーみ：深い興味を持つこと。
- ・ちむえー：意味。わけ。理由。
- ・むつと^と：全然。全く。少しも。
- ・みみじゃー：みみず。
- ・たんめー：祖父。おじいさん。
- ・ゆくーゆくー：よくよく。つくづく。
- ・んちゃ：土。土壤。
- ・食^くー倒すん：食い倒す。(財産などを)食いつぶす。
- ・後^あぬうじ^どゆめー：あげくの果ては。
- ・ち^とゆけー隣^{ない}：隣近所。
- ・むんだに：餌。
- ・なちかさん：悲しい。
- ・なーだ：まだ。いまだ。
- ・な^ふいん：もっと。さらに。
- ・どるばゆん：ぼんやりする。ポカンとする。
- ・うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。

*本文では、語句は活用されているのもあります。ここに示した語句は終止形となっております。

参考文献

- ・沖縄語辞典「国立国語研究所」
- ・沖縄語辞典 内間直仁・野原三義 編著
- ・Okinawan-English Wordbook Mitsugu Sakihara
「University of Hawaii Press」
- ・広辞苑「岩波書店」
- ・新公用文用字用語例集
「内閣総理大臣官房総務課監修」



崎浜和子さんのとーかち御祝記念写真 2015年7月4日

事務局から

今年も、素晴らしい年になりました。先ず一つは、崎浜和子さんの「^{とーかち}斗^{うい}搔^め御祝」が行われました。おめでとうございます。私たちも肖りながら元気で過ごしたいです。

もう一つは、この会報は、2004年に創刊号を発行して以来、皆さんのおかげで、本年は20号記念を発行することができました。今後とも皆さんのご支援をいただき、より楽しい会報にしたいと思っております。

今回は、渡嘉敷島の新垣光枝さんから、創作童話の原稿を頂戴しました。夢のあるお話は、子供たちにも喜ばれるものと思います。美しく、しかも、やさしいお月様の恵みを受けて獅子になるのですね。楽しく拝読しました。

山路会長からは、「どーあがち(自己努力)」のメッセージをいただきました。来年は、このような心構えで頑張りたいと思います。会報の表紙に名護親方の琉歌を引用しました。

和田晶子さんの原稿は、努力の賜物ですね。発音表記は、完ぺきでしたので、嬉しいです。ありがとうございました。

この会報を音読などの教材として使用される方がおられましたら、事務局へ連絡くださいませ。会報を増刷して差し上げたいと思います。

この会報は、「うちなぐち」にご関心があれば、会員以外の方でも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

國吉(眞)

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と[tu]	とーい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と[hwe]	とー(南) にとーでーびる(有難うございます)
と[to]	とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ[he]	へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど[du]	どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や[?jal]*	やー(君、お前) やん(言わない)
ど[dol]	どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や['jal]	やー(家) やん(である)
て[ti]	てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ[?jul]*	ゆん(言う)
て[te]	てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ['jul]	ゆんたく(おしゃべり)
て[di]	ふて(筆) むてー(喉) てきやー(秀才)	よ[?jol]*	よーいー(おさな子)
で[del]	でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ['jol]	よーんなー(ゆっくり)
ふ[kwal]	ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ[?wa]*	あー(豚) あーちち(天気)
か[ka]	かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ['wa]	わーむん(私のもの)
ふ[gwal]	にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ[?wi]*	あー(上) あーりきさん(面白い)
が[ga]	がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	あ['wi]	あきが(男) あなく(女)
く[kwil]	くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	あ[?we]*	あーきー(金持ち) あんちゆ(ねずみ)
き[ki]	きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	あ['we]	ういあー(お祝) わじゃあー(災い)
ぐ[gwi]	ぐーく(越来「地名」)	ん[?N]*	んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ[gi]	かーぎ(容ぼう)	ん['N]	んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く[kwe]	くー(鋤) からじくー(髪きり虫)	い['i]*	いん(縁) いだ(枝)
け[ke]	けー(かゆ) ちけー(使者)	い[?i]	いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
ぐ[gwe]	ぐったい(ぬかるみ)	を['u]*	をと(夫) をーじ(さとうきび)
げ[ge]	げー(害) にげー(願い)	う[?u]	うと(音) うーび(帯)
ふ[hwal]	ふー(葉) なーふ(那覇)	え['e]*	えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は[ha]	はる(畑) はぎもー(荒地)	え[?e]	えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ[hwi]	ふじゃい(左) ふーと(いるか)	お[?o]	おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ[hi]	ひやみかすん(えい、と言う)	を['o]	をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示す。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)